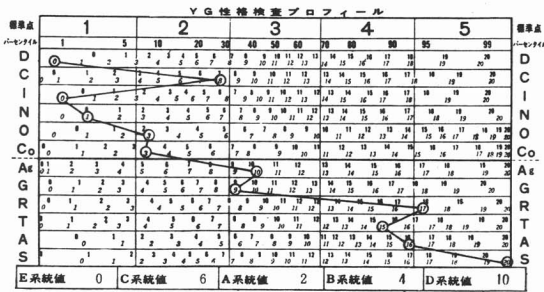


活動性が低すぎる点が気になる。

そのため自分からすすんでというよりは、だれかに引っぱられて行動することが多いと思われる。



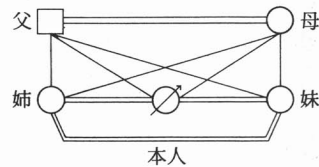
父は、会社重役で仕事がいそがしく、出勤、帰宅時間は不規則で、姉妹が幼少期から、父として接することは少なく、そのために姉妹の規範性の発達に悪影響をおよぼしていると考えられる。

母も公務員で、仕事熱心で、勤務先までの距離も遠く、そのため時に帰宅時間の遅くなることもあり、姉妹で夕食をすませていることもあった。

姉は、高校時代、父母に反発し一時不良交友等で問題を起こした時期があり、それを心配した両親は、進学、就職に反対、そのため家事手伝いをしている。

このような事情から、家族のまとまりが悪く、それは、次の家族システム・力動(B子の描いたもの)にも明らかに見られる。

● 家族関係のシステム・力動



親子関係が脆弱で、姉妹が強く結びついているいわゆる世代分離型の家族である。

5. 診断と指導仮説

(1) 診断

資料を総合的にみると、ひずんだ家族関係の中で期待されてかなりのわがまを許容されて育ったA子と世代分離した家族関係の中で父母の愛情にあまり恵まれないで育ったB子が、身体的に恵まれたA子をリーダーにB子以下4名が集って作った「遊び型の集団」であると考えられる。

A子とB子の関係では、何事にも自信のあるA子が、ボディイメージなどから見てもやや自信のない、依存心の強いB子を姉のような態度でリードしての問題行動と考えられる。

また、A子、B子を除く3名は、すでにこのグループからはなれる方向にあり、二人の心情を考え無理に引きはなしたりせず、二人合同面接を中

— 問題性予測検査 (DAT) —

検査尺度	①	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
危険性の段階	C (危険性小) B (危険性中) A (危険性大)													
パーセンタイル	1	10	20	30	40	50	60	70	80	85	90	95	99	
F. 家庭不適応	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
S. 学校不適応	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
E. 自己不適応	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
H. 対人不適応	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
P.1. 性 格 1 (意志的)	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8				
女	0	1	2	3	4	5	6	7	8					
P.2. 性 格 2 (感情的)	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8				
女	0	1	2	3	4	5	6	7	8					
P.3. 性 格 3 (思考的)	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8				
女	0	1	2	3	4	5	6	7	8					
N. 規範逸脱性	男	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
女	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
問題傾向	男	20	30	40	50	60	70	80	81	90	98	99	110	130
女	20	30	40	50	60	70	75	76	80	90	93	94	110	130
ASS得点 (25)	タイプ ()													

規範逸脱性がやや高いことを除き特に問題はない。

② 家族構成と家族関係

- 家族は、父、母、姉、妹の五人である。

